



2014年6月号

子どもの送り迎えを 気持ちよく夫に了解させる方法とは？



論理アタマが育つポイント

むずかしい交渉のときこそ、
一方的な理詰めでたたみ掛けるのではなく、
相手の心に届く話の順序が大切。
まず、夫を尊重する気持ちを伝えましょう。



「日曜日の朝」という時間は、妻にも夫にとっても憩いのひととき。それをいかにシェアするかというテーマは（私にも経験がありますが）、実際のところ、けっこうタフな交渉だと思えます。だからこそ、妻は夫に話を切り出す前にもっと論理的な話の筋道を考えるべきでした。

自分の気持ちを理解してほしいときに、一番してはいけないことは何だかわかりますか？ じつは、「感情的」になることなのです。問題編では妻が整然と話を進めているようにも読めますが、残念ながら感情にまかせて勝手に組み立てた理屈なので、夫を納得させることができず、ただ、「お前は勝手なヤツだ」というネガティブな思いを残しただけに終わっています。

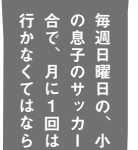


出口先生の小学生のママ向けサイトがオープン！
「ワンと伸びる、小学生のチカラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>

今月のお題
伝える技術 5

子どもの送り迎えを 気持ちよく夫に了解させる方法とは？

問題文



vol.11

論理アタマを育てよう！ ママのための 日本語トレーニング



せつかくの日曜日、午前中くらいはゆっくりしたい……と思っても、朝から子どもの習い事があるとそうもいってはいられません。できれば夫に替わってほしいと思った時、あなたなら、どんなふうに話を切り出しますか？

出口 汪 てぐち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書は累計600万部を超える。最新刊は小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ（小学館）。

「夫の休日は大切にしたい」という前提で話を始めましょう。

解答例



「夫の休日は大切にしたい」という前提で話を始めましょう。

妻 「太郎のサッカー、来月から第3日曜だけ、練習があさひが丘小学校になったの」
夫 「ふーん、そうなの」
妻 「往復で2時間弱かかるから、送っていったら家に帰ってる時間ないのよ」
夫 「大変だなあ」
妻 「そうよ。だから、あなたが車で行ってよ」
夫 「え、オレが？」
妻 「あなた、どうせのんびり寝てるだけじゃない」
夫 「オレは疲れてるんだよー」
妻 「だって月に1回じゃない！ 自分の息子のことよー」
夫 「だれか他の人に頼んで、オレは無理！」

妻 「太郎のサッカー、来月から第3日曜だけ、午前中に少し離れたグラウンドに練習に行かなくちゃいけないのよ」
夫 「ふーん、どうなの」
妻 「お疲れのていどで眠らないだけで……」
夫 「えっ？ オレ？」
妻 「あさひが丘小学校のグラウンドって、車でも家から往復で2時間弱かかるから、あなたに行ってもうえるてすく助かるの」
夫 「そうか……、けっこう遠いんだな」
妻 「太郎は、パパと車で行きたいって結構楽しみにしてるんだけど、いい気なものね」
夫 「うーん、太郎もその方がいいか」
妻 「私が行っちゃうと、午前中に家のていど手が回らなくて」
夫 「月1なら何とかなるかな……」

「日曜日の朝」という時間は、妻にも夫にとっても憩いのひととき。それをいかにシェアするかというテーマは（私にも経験がありますが）、実際のところ、けっこうタフな交渉だと思えます。だからこそ、妻は夫に話を切り出す前にもっと論理的な話の筋道を考えるべきでした。

「日曜日の朝」と夫はだまし討ちにあったような不快感を感じるでしょう。下線Aのように、「来月から月に一度、日曜の朝に遠いグラウンドに行かなくては行けなくなる」と切り出せば、知っておくべき子どもの情報として夫も話に自然と関心を持ちます。そして、この情報を共有しているという感覚はとても大切です。

また、これは本人次第ですが、夫の話の前に息子さんに「お父さんと行くってどう？」と尋ねてみてください。もし、前向きな返事であれば、夫の心を動かす素晴らしい材料になるでしょう。

小学生の習い事は上達するほど、送り迎えのほかに費用やお弁当など、親の負担は増えていきます。両親がお互いを支えあって、お子さんの成長を見守ってあげてください。